

## 2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

### ①活動の中心となる人材・指導者の育成に取り組んだ例

#### 福井：希少野生生物保全指導員の養成

越前市では、地元住民各集落1名以上を「希少野生生物保全指導員」として養成し、地域の希少野生生物の調査、生息地維持管理、盗掘・捕獲等の監視と、要請に応じて自然体験活動の指導を行なっている。

研修では1年間を通して、希少野生生物の生息環境の調査及び維持管理方法を座学や実習で学ぶ。担当箇所は基本的に自分の集落周辺で、定期的に調査結果を報告し、市の希少野生生物保護専門員が情報を集約している。

越前市白山・坂口地域は、希少な野生生物や昆虫や両生類等、里地里山の身近な在来種が多く生息する。特に湿地や水田周辺の生態系が豊かで、これらはこの地域の谷が多い複雑な地形と湧水箇所の豊富さ、そしてそのような環境を活用して地元農家が小さな農業用ため池や谷津田、水路、周辺の草地・林地を維持管理してきたことが大きい。このような形で地元住民が調査・監視・指導を行なう力を身につけることで、自立的な地域保全につながっている。



保全整備の研修会



各指導員の調査情報を集約



水田や水辺の生き物調査方法の研修



冬に本格化するアベサンショウウオ調査